



無題 2010年 木、オイル、アクリル、石、鉄 h.193×w.45×d.165cm



無題 2010年 木、石、鉄、アクリル、オイル h.211×w.58×d.96cm

加藤泉
日々に問う
プレス
リリース

加藤泉 日々に問う

会期 2010年9月18日(土)～2011年1月30日(日)
 会場 彫刻の森美術館 本館ギャラリー
 主催 彫刻の森美術館
 後援 フジサンケイグループ
 協力 ARATANJURANO / STUDIO カタクリコ / 株式会社スタンダードホール / 株式会社造景社 / 株式会社七彩
 出品点数 彫刻11点・絵画1点
 アートイスト・トーキー 13時30分～14時30分
 9月18日(土) 加藤泉
 10月9日(土) 加藤泉×須田悦弘
 11月13日(土) 加藤泉×神谷幸江
 広島市現代美術館チーフキュレーター

彫刻の森美術館は、昭和44年の開館以来、豊かな自然の中に彫刻を開放し、見る人と現代彫刻との新しいふれあいの場をつくりました。しかし、近年、われわれ人間の手による地球規模の環境破壊が顕著になり、環境の保全や自然への回帰が社会的な課題になっています。その傾向は芸術の世界においても同様で、自然との関わりや“場”との共生が求められています。

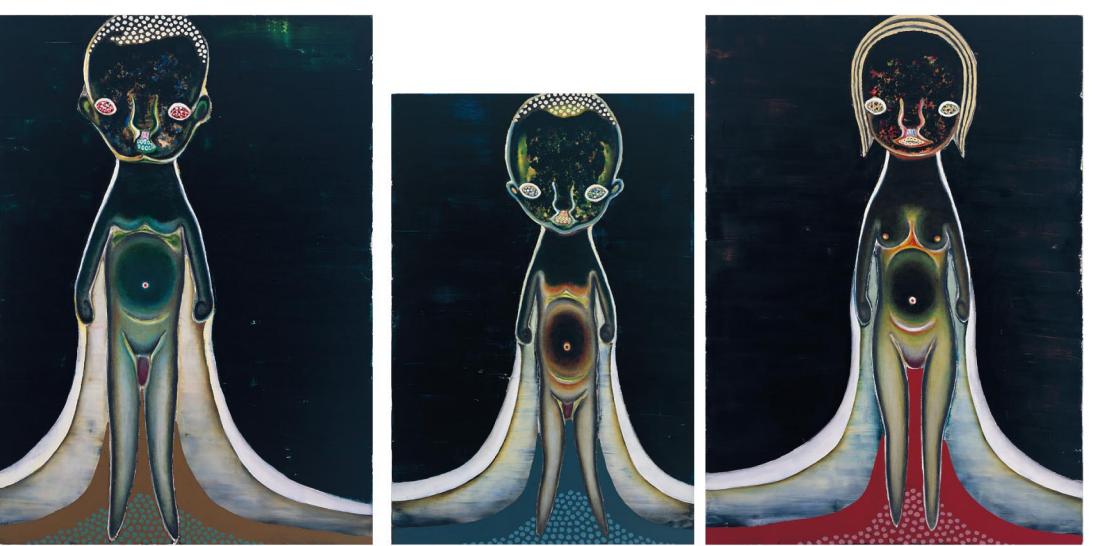
“森”は古来より、神話や信仰、文学など知的磁気の発生する場所として様々な想像を可能にしています。また、人々に恩恵をもたらす生物の宝庫として、その存在価値は今までになく高まっています。今、創造の力や知恵、休息を授ける自然の尊さを再認識し、自然と人間の関係を問い合わせる必要があります。その取り組みとして、彫刻の森美術館では加藤泉展を開催します。加藤は、2007年ヴェネチア・

ビエンナーレ国際企画展参加など、近年、とみに成長している注目の作家です。当初は油彩画を中心に制作していましたが、閉塞感から脱却するために、2005年から彫刻(木の直彫りに彩色)を作り始めました。その彫刻は、あたかも絵画が立体化したようで、アフリカ彫刻を思わせるブリミティブ(原始的)な存在感を放っています。モティーフは風景の中にたたずむ人間(原初的な形をした胎児・成人)であり、突起部が伸びて花や芽、根に変容する植物性が顕しています。

本展覧会では、植物シリーズの彫刻を中心に、人と植物が融合した芸術による新しい風景を作り出します。加藤泉の作品を通して自然とともにいる人間を様々な視点から見つめ、自然と芸術の力を感じ取ることで、これから“森”的在り方を再考する機会とします。



1 無題 2009年 木、オイル、アクリル、石、鉄 h.126×w.43×d.45cm
 2 無題 2010年 木、アクリル、石 h.166×w.230×d.230cm (サイズ可変)
 3 無題 2007年 カンヴァスに油彩 h.227.3×w.162.1cm, h.194×w.130.3cm, h.227.3×w.162.1cm



3



2

主な個展

2010 「SOUL UNION」 ARATANJURANO 東京
 2008 「The Riverhead」 上野の森美術館ギャラリー 東京

2007 「人」 ARATANJURANO 東京／「黙」 高橋コレクション 東京

2005 加藤泉展「裸の人」 SCAI THE BATHHOUSE 東京

2004 Murata & Friends × ニューハーフィッシュ / SMプロダクション Vol.5 (キッパー=児島やよい) 東京／ASK art space kimura 東京

2003 藍画廊 東京
 「クリエリオム46 加藤泉」 水戸芸術館現代美術ギャラリー

2001 第9室 茨城

主なグループ展

2010 「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」 国立国際美術館 大阪
 2009 「ネオデニー・ジャパン—高橋コレクション」 上野の森美術館 東京／「どろどろ、どろん—異界をめぐるアジアの現代美術」 広島市現代美術館 広島

2007 「リトルボニー・爆発する日本のポップカルチャー」 ジャパン・ソサエティー・ギャラリー ニューヨーク アメリカ

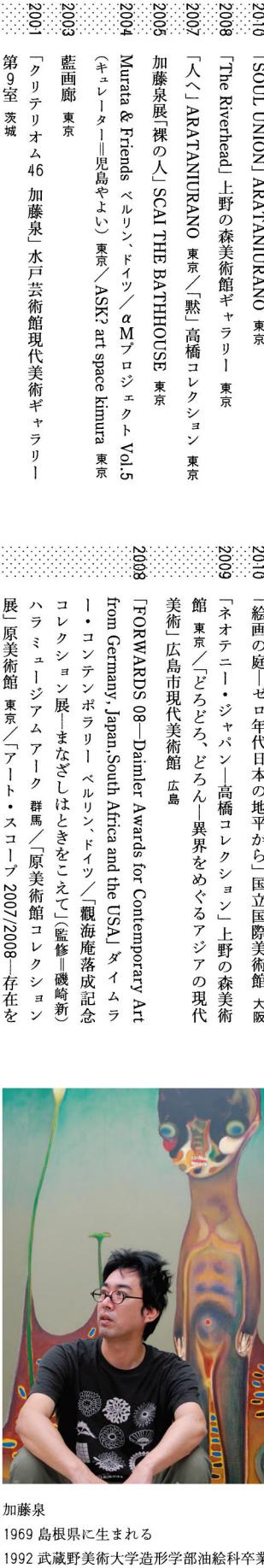
2004 「孤独な惑星—lonely planet」 水戸芸術館現代美術ギャラリー

2003 「ゾーン—不穏な時代の透視者たち」 府中市美術館 東京

バフワックコレクション

岡崎市美術博物館 愛知 国立国際美術館 大阪
 東京都現代美術館 東京 豊田市美術館 愛知
 原美術館 東京

プレスリリース



加藤泉
 1969 島根県に生まれる
 1992 武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業